



情報あきたま



置賜教育事務所
指導課だより

令和8年7月 №138

令和8年6月4日(木)特別支援教育研修会

ICT×インクルーシブ教育～一次支援の充実を図る～

学校法人 西軽井沢学園 さやか星小学校 校長 青木 高光 氏

今年度置賜教育事務所では、「困り感がある子どもの支援」だけでなく、すべての子どもが生活しやすく学びやすい環境を整える「一次支援」の充実を大切にしたいと考えています。そのため本研修会では、ICTを活用しながらユニバーサルデザインの考え方を取り入れた教育活動に力を入れて取り組まれている学校法人 西軽井沢学園 さやか星小学校 校長青木高光氏を講師にお迎えし、ご講話をいただきました。さやか星小学校での教育活動やこれまでの実践を紹介いただき、具体的な支援をイメージすることができました。

青木校長先生のご講話から

- 子どもの困り感を丁寧に見取り、その実態に合わせた支援をしていくこと
- ポジティブ行動支援やICT活用等の有効性
- 一人ひとりが『わかる・できる』を実感できる学習環境をつくることの重要性を学ばせていただきました。参加者の感想の一部をご紹介します。

子どもの姿を見取る際には、単に「できる・できない」で判断するのではなく、その子が今の段階にいて、どのような支援があれば次の学びや望ましい行動につながるのかを考えることが大切だと感じました。そのためにも、子どもにとって何が必要なのかを見極める専門性を高めていきたいです。
(小学校 管理職)

「苦手を補いつつ、参加を増やす」という言葉が印象的でした。そのために、教師ができる手だてを考え、本人ができることを増やし、自信につなげていく。そのような教育活動をしていきたいと思いました。
(中学校 教諭)

一次支援と同時に個別最適化といったときに、違うやり方で違う内容をやっていることを認めていく意識の醸成が大切であると思いました。
(小学校 教諭)

我々にとっての望ましくない行動1つ1つにはその子なりの訴えがあり、その訴えを捉え、尚且つどのような配慮をしていけば最終的に望ましい行動につなげていけるのかまで、視野を広げて関わっていくことの大切さを学ばせていただきました。
(福祉関係者)

1 子どもを理解する

行動の背景を見取る

- ABC分析で理由を考える
- つまずきの段階を把握する
- 発達の段階や学びの系統性を理解する
- 「努力不足」ではなく「支援が必要な状態」と捉える



なぜ、うまく
いかないのかな?

何ができないかではなく
何が**あればできるか**を考える



2 ポジティブ 行動支援 (PBS)

望ましい行動を増やす



- ★ できている行動
- ★ できつつある行動
- ★ 少しの支援でできる行動

を見つけて認める

「ほめる・認める・価値づける」

♥ 問題行動を減らすより
望ましい行動を増やす

3 ICT・視覚化で 支える

一人ひとりに合った学び

- タブレット活用
- 写真・動画による支援
- 読み上げ・代読機能
- 視覚的スケジュール
- 見通しの提示
- 個別最適な学習



ICTは特別な支援ではなく
すべての子どもの
学びを支える道具



この研修会が先生方の日々の実践を振り返り、これからの具体的な支援につながるきっかけとなれば幸いです。研修会に参加できなかった先生方にも、ぜひそれぞれができる一次支援について考え、子どもたちの可能性を広げる支援を進めていただければと思います。これから、さらに一次支援の充実を図り、誰一人取り残さない教育の実現を目指していきませんか？

第1回 資質・能力向上研究協議会

5月18日(月)実施

「校内で『ともに学び合える喜び』をデザインするには？」

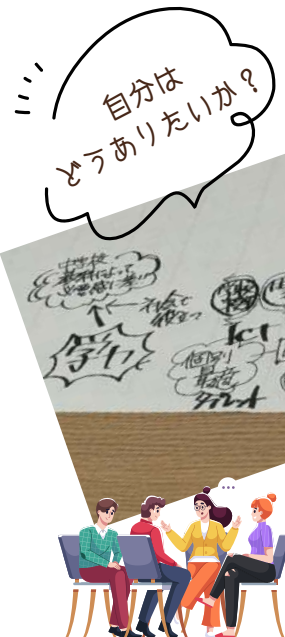
講師に、加賀市教育委員会事務局 事務局長 小林 湧 氏をお迎えした第1回資質・能力向上研究協議会。Okitama Challenge Notes第8号で、研修内容を紹介したところです。

今回は、先生方の学びを紹介します。



「子どもに学びを委ねる」ことについて、改めて考える時間となりました。

大切なことは、教師の確かな教材研究。付けたい力を明確にして単元を構成し、子どもの学びを適切に評価すること。これまで以上に、教師の指導力が試されていると言えます。



いじめ不登校防止連絡協議会

オンライン

講義

「SNSを介したいじめを重大化させないために」

兵庫県立大学 教授 竹内和雄 氏



参加者との対話形式でご講義いただきました。
子どもの目線から見たネットを含めたいじめの現状
や背景、「中学生がまとめた提言」などが紹介さ
れ、子どもたちの純粋な思いに触れることができま
した。「スマホの問題は“デジタルの難しさ”ではなく
“心の問題”として子どもたちと向き合っていくこと」
など、多くの気付きのある研修会となりました。
ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

いじめは絶対にダメ
いじめっ子も大切な「教え子」
いじめなくてよい学校に
楽しい学校、安心できる家庭



中学生が作成した提言

提言（自分たちへ）抜粋

- ① **自分も相手も笑顔**になるように振る舞う
- ② 「ありがとう」「ごめんね」口に出して伝える
- ③ 友達がつらそうだったら声をかける
- ④ 他人を**否定せず**に認める
- ⑤ 「**あれっていじめやんな**」と言える友だちを見つける
- ⑥ 悪口を言わず、周りが明るくなるような言葉を使う
- ⑦ ミーティングでの意見を学校や家族、地域に広める
- ⑧ いじめを見たら、先生に話すか自分たちで止める
- ⑨ **いじめた子が反省したら許して普通に接する**
- ⑩ **たくさんの人とかかわることで、新しい視点を持つ**

提言（先生へ）抜粋

- ① **たくさんほめて**
- ② **みんなが楽しめる行事**をして
- ③ **生徒と会話を増やして**
- ④ 「いじめはある？」と聞く**時間**を作って
- ⑤ **いじめと決めつける前に話を聞いて**
- ⑥ **校内で「だるまさんが転んだ」の機会**
- ⑦ **行事をもっとして**
- ⑧ **児童生徒の様子を見て、声をかけてほしい**
- ⑨ **スクールカウンセラーについて知る授業を**

提言（保護者へ）抜粋

- ① **安心できる家**にして
- ② **自分から話しにくいので親から話しかけて**
- ③ **家で過ごす時間を増やして少しでも休んで**
- ④ **朝ごはん、勉強 ネットなどに目を向けて**
- ⑤ **怒るだけでなく、良い点はほめて**
- ⑥ **聞いてくれるのはうれしいけど**
深掘りはやめて
- ⑦ **子どもを信じて、私たちの考えを知って**
- ⑧ **一人で食事をさせないで**

中学生が作成した提言を読んで、もっと生徒を信じて生徒に任せ、主体的対話的な活動と一緒に学校を作っていきたいと思いました。
(中学校教諭)

「大人は暴走する。」という子ども達の言葉をから、大人が良かれと思ってすること、言うことは、子どもたちにとってそうでないことも多いと、改めて気づきました。
(小学校教諭)

子どもたちにとっては「いじめっ子も大切ななかま」、先生にとっては「いじめっ子も大切な教え子」、という言葉が心に残りました。
(小学校教諭)

いじめが発生する要因が、学校や家庭での心理的な面から発展していることや、自己防衛の手段として「やめたくてもやめられない」状況になることなど多くのことを学びました。
(小学校教諭)

「いじめっ子を理解する」ことからいじめ・SNS問題を考えると、苦しい環境にいる子を否定せず受け止め、少しでも楽しい思いを学校・学級で体験できるようにすることの大切さ、目からうろこでした。
(小学校教諭)

